

基本目標2

グローバル社会を生きるために必要な「総合力」の育成

グローバル社会を生きるために必要な「総合力」の育成

■現状と課題

- グローバル化や情報化の急速な進展など、変化の激しい時代を生きる子どもたちには、自ら世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働していくための基盤となる力を総合的に育成することが求められています。
- 本県においては、将来の留学等に前向きな子どもが全体の3～4割にとどまっていることや、継続的に外国人と一緒に活動した経験がある高校生が少ない状況にあります。
- グローバル社会において多様な価値観を持つ者と意思疎通を図る上で、自己の価値観の基礎・背景にある郷土や日本への深い理解、論理的に考え伝える力、英語力（語学力）の育成が求められています。
- さらに、郷土や日本に対する理解を深めた上で、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度やコミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神を身に付けさせることが求められています。
- 各学校段階ごとの明確な目標設定のもと、小・中・高等学校を通じた英語力の継続的な向上が必要です。特に、新学習指導要領に基づく小学校英語教育の早期化・教科化への対応と中学校以降の学習との接続を意識した英語教育の改善が必要です。

グローバル人材の資質・能力



<本県公立高校生のグローバルに活躍する資質・能力の状況（高2）>

質問項目	肯定的な回答をした生徒の割合			
	H27	H28	H29	H30
外国へ留学したり、国内外を問わず海外と関わる仕事に就いたりしてみたいと思う	29.3	32.2	30.5	32.6
自分と異なる意見や価値観をもった人とも協力することができている	84.4	85.9	83.7	86.6
外国人に対し、大分や日本のことを、日本語を用いても伝えたり説明したりすることができる	27.3	48.4	46.6	48.6
学んだ知識を活かして、自分で考え、判断して、わかりやすく伝えることができている	59.5	64.7	62.8	66.8
英語を使って、積極的に外国人とコミュニケーションを図ることができる	19.3	24.9	24.9	24.7

(単位：%)

【出典】学習習慣等実態調査

■主な取組

これからのグローバル社会を生きる子どもたちが、世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働しながら未来を切り拓いていく上で、①から⑤の力の総合力が必要であり、その素地を学校・家庭・地域の協働による取組を通じて培います。

①挑戦意欲と責任感・使命感の育成

- ・高校生対象のグローバルリーダー育成塾^{※17}の開催等により、グローバル人材に触れる機会と他校の生徒や留学生等と協働して取り組むプログラムの充実
- ・海外大学のメソッドによる遠隔講座等を通じた世界最高水準の授業機会の提供
- ・留学フェアの開催や留学ガイドの作成、留学や海外大学進学に向けた相談窓口の設置等を通じた留学・海外進学に係る情報提供の充実
- ・国費による留学支援の積極的な利用促進を含む、留学に係る経済的支援の充実

②多様性を受け入れ協働する力の育成

- ・小・中学生を対象としたイングリッシュ・デイ・キャンプの実施
- ・外国語指導助手（ALT）や県内大学在籍の留学生の活用による異文化理解の促進
- ・県立学校での海外姉妹校協定の締結、Web会議、県内留学生との交流促進など国際交流活動の推進
- ・訪日教育旅行団、ホームステイ受け入れの活用
- ・スーパーグローバルハイスクール（SGH）指定校等で実践した先進的な取組の成果の普及
- ・国際バカロレア^{※18}認定に向けた研究の推進、教員の養成



イングリッシュ・デイ・キャンプ

③大分県や日本への深い理解の促進

- ・郷土の先人に関する教材の作成・活用等による郷土学習の充実
- ・芸術教育や道徳教育など学校教育活動全体を通じた、郷土や国を愛する心の育成
- ・海外姉妹校との交流等を通じた、郷土や日本についてのプレゼンテーション機会の充実

※17 グローバルリーダー育成塾…平成28年度から、世界へ挑戦する気概やリーダーとしての素養の育成に向けて、年4～5回、高校1・2年生を対象に、世界で活躍する講師の講演や他校の生徒や県内在住の留学生・ALT等との意見交換や英語によるプレゼンテーション等を実施するもの。

※18 国際バカロレア…国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラムのこと。生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、所定の成績を取めると国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）が与えられる。

④知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力の育成

- ・資質・能力3つの柱（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）の育成がバランス良く実現できる「付けたい力を意識した密度の濃い授業」の追求
 - 「新大分スタンダード」に基づく授業の徹底（小・中）
 - 教科指導力向上等を目指した「中学校学力向上対策3つの提言」の促進
 - 問題解決的な展開の授業の推進や習熟の程度に応じた指導の充実
 - 各教科等を通じた言語活動・体験活動の充実
 - 学校図書館・ICTの積極的な活用等による指導方法・指導体制の工夫改善
 - 小学校高学年における教科担任制の推進
- ・思考力、判断力、表現力等を育成するため、「県立学校授業改善実施要領」に基づく授業改善の推進
- ・課題解決型学習（PBL）^{※19}の導入など、総合的な探究の時間等を活用した発展的な教育活動の推進

⑤英語力（語学力）の育成

- ・小・中・高等学校を通じた英語力向上を目指す「大分県英語教育改善推進プラン」（平成28年3月）に基づく英語教育の改善
- ・系統的・体系的な英語指導を行うための校種間連携の推進
- ・4技能（「聞く」・「読む」・「話す」・「書く」）の評価方法の確立と目標の設定
- ・4技能を高める「大分県発英語授業モデル」の開発・普及など指導力の向上
- ・小学校英語教育の早期化・教科化に対応する指導力向上と指導体制の充実
- ・生徒の英語による発信力の育成に向けた取組や英語教員のスキルアップに向けた研修等の充実

■目標指標

指標名	基準値		実績値 (H30)	目標値 (R6)
	年度			
グローバル人材として活躍するための素地を備えた生徒の割合 (高2) ^{※20}	H26	40%	50.6%	60%
高校在学中に、外国人とコミュニケーションを図った経験がある 生徒の割合（高3）	—	—	—	50%

※19 課題解決型学習（PBL）…学習指導の方法の一つで、児童生徒が自ら発見した実社会の課題や問題の解決に取り組み、その学習の過程で、経験や知識を得たり、能動的な学習能力や課題解決能力などを身に付けたりする学習方法。

※20 グローバル人材として活躍するための素地を備えた生徒の割合…以下の5つのアンケート調査項目3つ以上に肯定的に回答する生徒の割合。

- ①外国へ留学したり、国内外を問わず海外と関わる仕事に就いたりしてみたいと思う
- ②自分と異なる意見や価値観を持った人とも協力して、目標に取り組むことができている
- ③外国人に対し、大分や日本のことを、日本語や英語（外国語）で伝えたり説明したりすることができる
- ④学んだ知識を活かして、自分で考え、判断して、分かりやすく伝えることができている
- ⑤英語を使って、積極的に外国人とコミュニケーションを図ることができる